

蚊に気を付けて！

刺されない・増やさないために

蚊は、デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、ウエストナイル熱、日本脳炎など、さまざまな感染症を媒介します。蚊が媒介する感染症を防ぐために、普段から蚊に刺されない、蚊を増やさない対策を行きましょう。

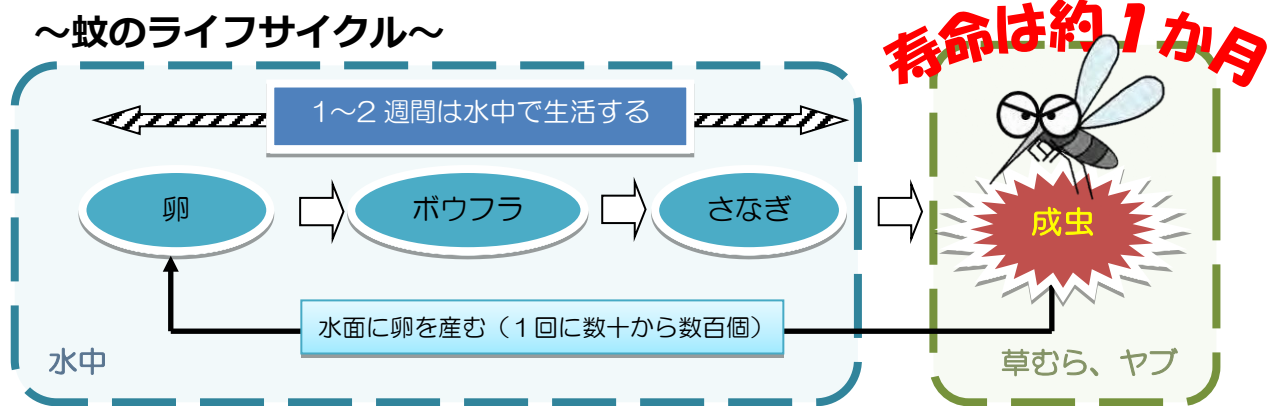
特に、デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症を媒介するヒトスジシマカは活動範囲が狭い（半径 100～150m程度）とされています。身の周りにある蚊の発生源を減らし、蚊を増やさない環境づくりをしましょう。



ヒトスジシマカ

写真提供：国立感染症研究所昆虫医科学部

1. 蚊の習性



蚊は雌だけが吸血します。雌は水際や水面に卵を産み、卵が孵化すると「ポウフラ」（蚊の幼虫）になります。「ポウフラ」はやがて「さなぎ」になり、「さなぎ」が羽化して成虫になります。雌の成虫は3日ほどで吸血を始め、約1か月の寿命があります。

2. 蚊に刺されないために

肌の露出を避けましょう

蚊の多い場所へ行く時には長そで、長ズボンを着用し肌の露出を避けましょう。



忌避剤を正しく使用しましょう

虫よけスプレー・ローション等の各種形状の製品がありますが、使用上の注意をよく確認してから使用しましょう。



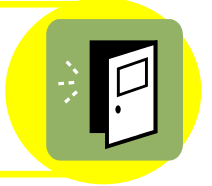
蚊のいる場所は避けましょう

雑草の茂った場所や湿った風通しの悪い場所でとどまることは控えましょう。



蚊を家に入れないようにしましょう

窓に網戸を設置したり、ドアの開閉をなるべく少なくしましょう。



3. 蚊を増やさないために

こんなところに蚊のすみかがあります！！

幼虫（ボウフラ）対策

ボウフラは小さな水たまりでも発生します。水たまりをなくし、水たまりの原因となるものをかたづけましょう。



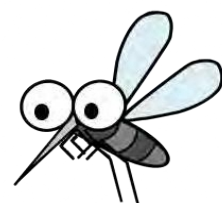
古タイヤ、空き缶などはかたづける

植木鉢の受け皿は週に一度取りかえる



成虫対策

成虫は草むらやヤブの中など湿った風通しの悪いところにいます。雑草の草刈りなどを定期的に行って、蚊のすみかをなくしましょう。



こんなところに潜んでいるよ



ボウフラ用殺虫剤を使用する場合

殺虫剤は効率的な駆除をすることができますが、効果は一時的です。また、過剰な散布は環境への悪影響につながります。持続的な防除をするには、蚊の住みにくい環境にすることが最も大切です。

水たまりをなくすことなどが困難等の理由で、殺虫剤によるボウフラの駆除を行う場合には、他の生物に害が少ないと言われる昆虫成長阻害剤（IGR 剤）を使用しましょう。

使用にあたっては、使用上の注意をよく読み、使用量は最小限に留めましょう。



蚊の防除などでお困りのときは各区福祉保健センター生活衛生課までご相談ください。

◆各区福祉保健センター生活衛生課 連絡先◆

区	電話番号	FAX 番号	区	電話番号	FAX 番号	区	電話番号	FAX 番号
鶴見	510-1845	510-1718	保土ヶ谷	334-6363	333-6309	青葉	978-2465	978-2423
神奈川	411-7143	411-7039	旭	954-6168	952-1504	都筑	948-2358	948-2388
西	320-8444	320-2907	磯子	750-2452	750-2548	戸塚	866-8476	866-2513
中	224-8339	681-9323	金沢	788-7873	784-4600	栄	894-6967	895-1759
南	341-1192	341-1189	港北	540-2373	540-2342	泉	800-2451	800-2516
港南	847-8445	846-5981	緑	930-2368	930-2367	瀬谷	367-5751	367-2843